

ありがたさ

広報担当委員長

大森 教生

ふと、最近「タイムミング」という単語をよく口にしがちだと気付きました。「タイムミング」という単語を辞書で調べると「ある物事をするのに丁度よい時機や瞬間」とありました。

何かにつけ、この単語を口にはしていたものの、ちゃんとした意味を知らずに使っていた自分をまず恥じますが、同時に

物事を進めていくには、その時々での人間関係や、環境などさまざまな事象がまつわるもので、こ

と「お寺」となると、それは非常に大きな割合を占めると思います。お寺を維持していく上で避けては

通れないお堂や境内の修繕などは、住職や副住職が独断で進

めることはできません。檀信徒と話し合い、代表である檀家総代たちと手を取り進めていくものです。まさに今、自坊は330年ぶりの本堂・客殿の再建新築工事の真最中にあります。この大事業は檀家さんをはじめさまざまな人の協力のもと、やっとスタートを切ることができました。紆余曲折ありましたが「丁度よい時機」まさに「タイムミング」だったのだと思います。そのことを保証してくれるかのように、ご守護下さる仏さまから言わされているように感じたのです。

現在私は、全日青広報担当委員長を拝命しております。広報の役割は、広く自分たちの活動や、思いを伝えることと認識しております。任期2年で5冊発行する当会の機関誌『全国日青』。この誌面を通じて、第34代執行部の思いを全国の青年僧に、また手に取り目を通して下さった人たちに、思いが届くように努めています。作りながら、人に思いを伝える難しさを痛感し、迷い悩み頭を抱えています。ですが、この経験は今後の自分を支えるものになると確信しています。

自分の思いが少しでも多く伝わるように、この「タイムミング」にまつわるすべての皆さまに、報恩感謝して参りたいと思っております。

■石川県妙法輪寺修徒／昭和57年生／石川能登日青会／立正大学仏教学科卒



行くぜ！全日青！

たくさんの青年僧の強い思いを伝えたい